



油絵学科研究室主催
大本幸大 個展
「生命線」

Gallery of
The Fine Art Laboratory **gFAL**



会期：2021年5月10日（月） - 5月28日（金）

11:00 - 17:00 日・祝日 休廊

会場：武蔵野美術大学 2号館 1階 gFAL

〒187-8505 東京都小平市小川町 1-736
tel:042-342-6051

アーティストトーク：5月10日（月）

*会場先着15名+ZOOMにて配信予定
 油絵学科学生にはメールにて詳細とZOOM URLをお知らせします。
 他学科より参加希望の学生はgFAL担当 (hkatayama@musabi.ac.jp)
 へご連絡ください。

大本幸大 | Kota Omoto

1988 山形県生

2013 武蔵野美術大学 造形研究科修士課程絵画コース修了

大本は東日本大震災の年に卒業したまだまだ若い作家である。
 彼は大学院修了後から個展を中心に発表を続けているが、私は毎年の彼の発表を楽しみに観るようにしている。それは個展のサブタイトルである「誰もが泣きながら生まれてきたから」（2019年）、「ままたらぬままのまにまに」（2016年）などからも想像出来るように、かなりエグイ。

巨大な豚を都市全体が飼育していたり、無数の人間が電信柱にぶら下がっていたり、
 今回の案内状も線路の枕木が人間なのである。この男の頭は大丈夫だろうかなどと思いながらいつも怖いもの見たさに出かけてしまうのである。

ただ本人は全く礼儀正しい青年であり、絵で人を驚かせてやろうとか、一旗揚げようとかは全く考えていない。多分彼は本気で現代を生きる人間を描きたくて描いているだけなのである。人間を描くと言う事はその目に見える表層を描くだけでは足りないと思っているのだ。人間には心の奥底に、その背後に数多のドロドロした無意識がある事を彼は知っているのだ。そしてそこには絡み合う様々な心理や記憶があって容易に抽出できるものではないと思うが、彼はその絡み合う糸を解き、巧みに引っ張り出して我々の前にさらけ出してくれるのである。矛盾ばかりの現代人の心の内面を、何も恐れずに自分が感じるままに描いているだけなのである。

私は絵にはこのような役割もあると思うし、大本はそれを自分の役割として実践しているのだ。それは想像するに寒くて、つらくて、汚い、もっと言えば面倒とも言える役割なのだが、彼は途中で投げ出したりはしないし、放棄はできないだろうと思う。何故ならそれが今を生きる誠実な彼の人柄なのだから。 油絵学科教授

水上 泰財

【Group Exhibition (Selected)】

- 2018年 識/MASATAKA CONTEMPORARY(東京)
- 2017年 handpicked artists/MASATAKA CONTEMPORARY(東京)
- 2015年 100号展/MASATAKA CONTEMPORARY(東京)
ASIA WEEK NEW YORK 2015/Bernarducci Meisel Gallery(ニューヨーク)
- 2014年 はじまり。展/MASATAKA CONTEMPORARY(東京)
企業コラボアート東京2014/MDP Gallery(Lift étage)(東京)
- 2012年 第2回 ドローイングとは何か 公募入選者展/ギャラリー志門(東京)
ポールペン四人展/ギャラリー志門(東京)
カオスー混沌・明日への問いかけー/ギャラリー日比谷(東京)
- 2010年 トーキョーワンダーシード2010入選者展/トーキョーワンダーサイト渋谷(東京)
アーティストによる時事放談展/ギャラリー・アートコンポジション(東京)

【Solo Exhibition (selected)】

- 2019 誰もが泣きながら生まれてきたから/アートギャラリー絵の具箱(東京)
- 2016 ままたらぬままのまにまに/アートギャラリー絵の具箱(東京)
- 2015 雑景/MASATAKA CONTEMPORARY(東京)
- 2014 遠吠えで空洞は埋まらない/アートギャラリー絵の具箱(東京)
- 2013 つながれたもの、つながれぬもの、そのどちらでもないもの
/アートギャラリー絵の具箱(東京)
- 2011 Deadscape/ギャラリーまつ(山形)

